

成人看護学慢性期・回復期実習

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 三浦 幸枝 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	3	区分・時間数	実習 112.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	3 単位		

・学習方針（講義概要等）

既習の専門科目で学んだ知識・技術を基に自らが学修し研鑽する態度および患者を取り巻く社会の動向を踏まえ感染予防や医療事故防止といった安全なケア環境を保持する看護専門職としての基本的態度の育成を目指す。成人期にある看護を必要とする人およびその家族と援助関係を形成すると共に、健康問題や生活環境をアセスメントし、保健、医療および福祉と連携をとりながら看護過程を展開することで問題解決のプロセスについて学修する。患者の人生や価値観を尊重し、健康生活のあり方や意思決定を支援するとともに、他職種と協働しながら患者や患者を取り巻く人々への援助を実践する。

・教育成果（アウトカム）

慢性的な健康障害にある対象あるいは、終末期状態等にある対象を全人的にとらえ、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象及びその家族の体験を理解しセルフケア能力や健康問題に適応する援助を実践する能力及び態度を養う。また、終末期状態等にある患者が体験する全人的苦痛を理解し終末期状態にある患者の看護を通して生と死についての考えを深めることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7

・到達目標（SBO）

1. 対象の特徴とそれぞれの健康特性を身体、心理、社会およびスピリチュアルの各側面から理解できる。
2. 十分な倫理的配慮のもとで、対象との援助関係を構築することができる。
3. 根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し看護問題を見出すことができる。
4. 対象および家族に必要な看護問題を見出すことができる。
5. 自己の看護実践を客観的に評価することができる。
6. チーム医療における看護師の役割および他職種の連携が理解できる。
7. 看護に対する自己の考えを深めることができる。

・授業日程

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。			共通基盤看護学講座	三浦 幸枝 特任准教授 横田 真理子 特任講師 藤澤 純子 助教	※詳細は実習要綱に記載する

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第2版	林直子、他編	南江堂	2014
教	看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 改訂第2版 病気とともに生活する人を支える	鈴木久美、他編	南江堂	2015
教	系統別看護学講座 別巻 緩和ケア 第2版	恒藤暁、内布敦子編集	医学書院	2014
教	系統別看護学講座 別巻 がん看護学 第1版	著者代表 小松浩子	医学書院	2013
参	ナーシンググラフィカ 成人看護学③セルフマネジメント	安酸史子、他	メディカ出版	2015

・成績評価方法

成人看護学慢性期・回復期実習評価表に基づき評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

疾患（機能障害、代謝・内分泌機能障害等）について病態生理、症状、検査、治療と生体への看護を整理する。最低30分以上の事前学習を通して、慢性期看護に必要な基礎的知識および看護援助技術を復習する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

毎朝提出される前日の実習記録にコメントを付して返却する。
毎日の学生カンファレンスに参加し、コメントと助言を与える。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表3）：臨地実習 専門分野Ⅱ 成人看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			